

2010年2月15日

オープンソースカンファレンス実行委員会

【オープンソースカンファレンス地域開催協力コミュニティからのエンドースメント】

LOCALからのエンドースメント

一般社団法人 LOCAL は、北海道地域における IT 技術者の相互交流の場としてオープンソースカンファレンスと共に様々な人の交流を生み育んできました。

オープンソースカンファレンスのような技術者中心の交流の立場から政府、自治体に対するアプローチを行うことは、地域における対話、交流を活発にしていこうという部分においても、地域にとって大切な活動になると言えます。

LOCAL はオープンソースカンファレンス年間テーマ「オープンソースと政府・自治体」に賛同し、地域における技術者文化育成を考えていきたいと思っています。

東北 OSS 利活用検討会からのエンドースメント

東北 OSS 利活用検討会では地域の課題に対応するための OSS 利活用について教育・自治体・企業からのメンバーが一体となって調査検討してまいりました。

また、OSC に賛同し、東北初の OSC を 2009 年に共催として開催し、地域での OSS 利活用とコミュニティの活動を支援すべく活動してまいりました。

東北 OSS 利活用検討会では今後も地域の課題への対応に OSS 利活用を通じた取り組みを行いたいと考えます。また、コミュニティと産学官の連携を図る場として、OSC の地域での開催に大いに期待しています。

新潟オープンソース協会からのエンドースメント

昨年、新潟県で開催された新潟国体全国障害者スポーツ大会は、県内業者によって構築された大会運営システムがその舞台裏を支えました。この大会運営システムは、全て OSS 環境で構築され、新潟県の公共システムとしては初の OSS 開発事例として広く県内外に広く紹介されました。このような事例から、新潟においても OSS を利用したシステム開発を行っていかうという気運が高まっています。OSC は地方の技術者がコミュニティと情報共有を行い、技術を学ぶために大変に重要なイベントです。新潟オープンソース協会は OSS 発展のため、今年も OSC の活動を最大限にお手伝いしていきます。

OSC Nagoya 実行委員会(2008,2009)からのエンドースメント

オープンソースカンファレンス名古屋(OSC Nagoya)実行委員会(2008,2009)および FLOSS 桜山を始めとする東海地方を中心に活動するオープンソースコミュニティは、名古屋/東海圏における OSS の普及促進・情報交換、および東海地方と地域外の方々との技術的・人間的交流活動を積極的に行ってきました。

特に、過去2年のOSC Nagoyaは、コミュニティの連携と相互交流をメインテーマとして開催し、猛暑8月にもかかわらず東海圏の内外から延べ400名を超える多くの方々にご参加いただきました。これはひとえに、オープンソースカンファレンス実行委員会ならびに各方面の皆様からのご支援・ご協力の賜物です。

東海地方を中心に活動するオープンソースコミュニティは、オープンソースカンファレンス実行委員会の活動方針に賛同し、今後とも東海圏における OSS コミュニティ活動の足場となるべく活動を行っていききたいと考えています。

関西の OSC の実行委員会（京都+神戸）からのエンドースメント

関西では、OSC Kansai@Kyoto として 2007 年より京都で例年夏に開催しており、今年からは地域 ICT 推進協議会(COPLI)の協力の元に神戸でも開催できるようになりました。関西圏のオープンソースに関わるコミュニティーや ICT 企業が相互につながる場所として、そして多くの人と交流し活動を展開する場所として、毎年たくさんの団体に出展していただいております。また、多数の学生・生徒の来場もありこれからは担う若手への普及・啓蒙としても、そして学校教育を含む公共団体などへの橋渡しの場としてもますます重要となってきました。OSC Kansai として、これからも ICT の普及を通して、関西圏の発展の一翼を担えるような場を継続していきたいと思っています。

しまね OSS 協議会からのエンドースメント

しまね OSS 協議会は、島根県内における OSS に関わる企業、技術者、研究者、そしてユーザが連携し、また全国の OSS コミュニティともネットワークを組むことによって、OSS の技術力・開発力の向上を目指してきました。

OSC が 2010 に掲げるテーマ「オープンソースと政府・自治体」は、しまね OSS 協議会が進めてきた産官学連携のスタイルと一致し、これをより促進するものであると思われます。

しまね OSS 協議会は、OSC の活動方針に賛同し、全国各地で開催されるカンファレンスを中心として、全国の OSS に関わる企業、技術者、研究者、ユーザとの連携を強めていきたいと考えています。

STLUG（瀬戸内 Linux ユーザ会）からのエンドースメント

STLUG は 2006 年 4 月からオープンセミナーという名前で瀬戸内地域での IT 勉強会を開催しており、2008 年からは香川・徳島・岡山の 3 県で毎年 1 回オープンセミナーを開催しております。また「オープンラボ」や「かいらぼ」という小規模の勉強会や「SICP」「ガウディ本」などの読書会も開催しております。

2010 年は香川県で OSC の開催が計画されており、地域と地域のつながりがますます広がることを喜んでおります。中央から地域へ広がるコミュニティーの輪と地域で活動してきたコミュニティーの輪が重なり、より強い大きな輪となって広がることを期待しております。

大分県 OSS 研究会からのエンドースメント

大分県オープンソースソフトウェア研究会では、オープンソースソフトウェア技術者間の交流を促進するため、オープンソースカンファレンスを含むセミナーなどの研究会を 2006 年より 18 回ほど開催してまいりました。

また、研究会設立のきっかけとなった、2005 年の IPA 実証実験のころから、大分の自治体、企業、学校が連携して、事業を推進しており、現在、48 団体、98 名が参加するまでに成長しております。

以上の経緯から、大分県 OSS 研究会は、OSC の活動方針に賛同し、大分での OSC 開催を継続すると共に、OSS と政府・自治体のあり方について協力させていただきたいと考えています。

Java Kueche からのエンドースメント

Java Kueche は、沖縄における数少ないプログラマコミュニティーとして、沖縄での Java の普及、Java 技術者の育成、また Java に限定しないプログラマのコミュニケーションの場を提供する目的で、2006 年 7 月 21 日に設立されました。Java はエンタープライズ系から組み込み系まで幅広く使われる最も代表的なオープンソースの一つであり、他のオープンソース技術との連携も活発です。私達は OSC との関係を強化して、沖縄県内の技術者のさらなるスキルアップの機会を提供してまいります。

【オープンソースカンファレンス参加各コミュニティからのエンドースメント (50音順)】

Debian JP Project からのエンドースメント

Debian JP Project は自由なオペレーティングシステムである Debian の日本国内における普及、改善、開発者支援などの活動を行っている団体です。オープンソースカンファレンスには Debian JP Project 有志が、東京エリア Debian 勉強会、関西 Debian 勉強会として参加しております。オープンソースカンファレンスの活動は、自由なソフトウェア・オープンソースソフトウェアの普及において我々の活動とも一致し、これからも共に協力し発展する事を願い、その活動に賛同します。

Geeklog Japanese からのエンドースメント

Geeklog Japanese は、Geeklog の日本ユーザー会としてオープンソースカンファレンスに積極的に参加し、全国の Geeklog ユーザをむすび、互いに発展していくため、サポートおよび本家へのフィードバック活動に注力しています。また、今後の OSS の活発化を願っています。

KNOPPIX 教育利用研究会からのエンドースメント

KNOPPIX 教育利用研究会は、オープンソースソフトウェア（以下、OSS）の教育利用について全国に散らばる教育関係者を繋ぐ存在として活動して参りました。

特に Live Linux としての KNOPPIX の有効性に注目し、教育実践を積み重ねて参りました。各地域の OSC に出展することで、その地域の教育関係者や OSS コミュニティとの交流をはかる大変貴重な機会を提供していただいております。

KNOPPIX 教育利用研究会としても、OSC の新たな活動方針に大いに賛同し、OSS と政府・自治体のあり方について、積極的に議論、協力させて頂き、「OSS と教育」ならではの情報提供や問題提起を行って参りたいと考えております。

Momonga Project からのエンドースメント

Momonga Project は Linux ディストリビューションを作成することを楽しんでいる小さなコミュニティです。

オープンソースカンファレンスは、私達の成果物である「Momonga Linux」の展示や発表の場を与えてくれただけでなく、直接会う事が少ないプロジェクトメンバーが集まる機会を、そして、ユーザや他のコミュニティの方々に直接話を聞ける重要なイベントとなっています。

Momonga Project はオープンソースカンファレンスの 2010 年活動方針に賛同すると共に、参加する事により様々な地域の多くの人々、そして多くのコミュニティと交流を深めていきます。

Moodle 研究会(仮) からのエンドースメント

Moodle は、教育用 CMS(LMS)として世界中の教育機関で利用されています。

日本でもオープンソースであるということから大学機関での導入が進んでいます。また、公式サイト上にあるフォーラムでの議論も活発です。

しかしながら、オープンソースカンファレンスといった他イベントに参加するような団体は、日本にはまだありません。

そこで Moodle 研究会(仮)は、様々なイベント等に参加し、Moodle をよりいろんな人に知ってもらおう、情報をみんなで共有しよう、そういう趣旨で立ち上げられました。

Moodle 研究会(仮)は、今後も OSC を通して情報交換・情報共有してゆきたいと考えております。日本の OSS 普及貢献に寄与されている OSC 実行委員会様へ、ここに感謝の意を表明いたします。

Mozilla Communities' Network in Japan (MCNJ) からのエンドースメント

MCNJ は、Mozilla プロダクトに関連するグループが、開発者向けにそしてユーザ向けにさまざまな活動を行うための場を提供するために設立され、準備中のプロジェクトを含めいくつものグループが活動しています。Mozilla のコミュニティは 2004 年より OSC に参加しており、これまでの OSC への参加によりさまざまな知識を得、そして他のコミュニティについて知ることができました。私たちは、OSC2010 活動方針に賛同し、今後とも活動紹介や他の OSS との交流を通じて、Mozilla そのものや OSC 界を盛り上げていくために、OSC に積極的に参加するとともに場を活用して行きたいと考えています。

OpenOffice.org 日本ユーザー会からのエンドースメント

OpenOffice.org 日本ユーザー会は、オープンソースカンファレンス (OSC) の 1 回目から参加しています。メーリングリスト、掲示板、最近では SNS などコミュニケーション手段は増えてきましたが、OSC のようにユーザーの方々と直接出会う場ほど貴重なものではありません。最近の OpenOffice.org を導入していただいた自治体や企業・団体の増加も、OSC の場での交流がきっかけになったものが少なくありません。OSS の採用により、コスト削減に取り組む方々との交流に、これからも OSC の場を活用したいと、OpenOffice.org 日本ユーザー会は願っています。

OpenStreetMap ジャパンからのエンドースメント

OpenStreetMap はオープンな地理データを中心として、それを操作する多種多様の OSS を利用/開発しています。

日本のコミュニティには特定プロダクトに依存しない多様なメンバー、即ち開発者、利用者、地図愛好家などが集まり、ゆるやかなつながりで活動をしています。

将来的には政府・自治体、NPO/NGO、学校、企業などあらゆるシーンでの OSM 活用が期待されています。

OpenStreetMap ジャパンは OSC の活動方針に賛同し、今後とも活動紹介や交流のための貴重な機会として、またオープンソースとオープンデータの活用を議論する場として参加して行きたいと考えています。

OSS コンソーシアムからのエンドースメント

OSS コンソーシアムは「オープンソースカンファレンス」2010 年活動方針に賛同するとともに、本活動を支援いたします。

今年を通算開催 50 回目の記念すべき年でもあり、今後もコミュニティの活動基盤、学習やビジネスと、OSS の可能性を広げる基盤として、オープンソースカンファレンスの今後の活動に期待しています。

Plone User's Group Japan からのエンドースメント

Plone User's Group Japan はオープンソースカンファレンスの 2010 年の活動テーマを応援しています。

すでにオープンソースは企業や行政機関、ビジネスにおける情報配信や通信システムの基幹システムとして広範囲で活用され、社会的に不可欠な存在となっています。オープンソースに関わるエンジニアや企業が胸をはって活動できる環境を整えること、政府や自治体が欧米諸国並みにオープンソースに取り組む先駆けとなることを願っています。

TYPO3 UsersGroup JAPAN からのエンドースメント

TYPO3 UsersGroup JAPAN は、3年ほど前からオープンソースカンファレンスに積極的に参加し、日本での TYPO3 普及活動を行ってまいりました。

徐々にではありますが、オープンソースカンファレンスに参加したきっかけで、TYPO3 を知っていただける機会が増えましたし、他の OSS コミュニティとのつながりも増えた事を実感しております。

TYPO3 UsersGroup JAPAN は、オープンソースカンファレンスの 2010 年活動方針に賛同し、OSS の普及ならびに OSS へ貢献できる場として参加して行ければと考えております。

Ubuntu Japanese Team からのエンドースメント

Ubuntu Japanese Team は、Linux ベースのオペレーティングシステム「Ubuntu」の日本における地域コミュニティです。日本国内における Ubuntu の普及活動や、主に日本語に関する部分での改善作業などを行っています。

私たちにとって、オープンソースカンファレンスは活動紹介や交流の場として無くてはならないものです。私たちの中には、オープンソースカンファレンスをきっかけとして Ubuntu のコミュニティ活動に携わるようになった者も多くおり、オープンソースカンファレンス実行委員会の活動には心から感謝しています。

Ubuntu Japanese Team は、オープンソースカンファレンス実行委員会が掲げる 2010 年の活動方針に賛同します。2010 年も、関東・関西を中心に複数の開催地で参加させていただきます。

ZABBIX-JP からのエンドースメント

ZABBIX-JP はオープンソースの統合監視ソフトウェア Zabbix の日本における普及を目的としたコミュニティです。オープンソースカンファレンスには 2008 年より出展させて頂いており、様々なユーザー様と直接コミュニケーションを行える数少ない貴重なイベントとなっております。

ZABBIX-JP はオープンソースカンファレンス 2010 の活動方針に賛同するとともに、今後も日本のオープンソースコミュニティ活動の発展に貢献できるよう協力を行って参りたいと考えております。

オープンソース(OSS)で中小企業の IT 化からのエンドースメント

「オープンソース(OSS)で中小企業の IT 化」では、現役 IT 担当者が自力で導入した OSS 事例を公開をはじめユーザー、ベンダー、開発者の垣根のない OSC という貴重な場で情報交換、情報発信を行っています。

各自治体が OSS の活用を機に蓄積されたノウハウを地元中小企業に公開し、IT 支援を行う方向に発展すれば、費用面での IT 格差の解消と企業活性化につながると考えられます。

まさに OSC2010 の活動内容は、中小企業の IT 化への追い風になる起爆剤と考え、賛同いたします。

小江戸らぐからのエンドースメント

小江戸らぐ(Koedo Linux Users' Group)は、埼玉県の地域 LUG(Linux Users Group)です。

オープンソースカンファレンスには、第 1 回より重要な活動報告や情報交流の場として参加させて頂いております。

東京以外での開催でも新潟と仙台での開催に参加させて頂きましたが、地域密着で活動されている方々との交流によってお互いの活動の発展に繋がっております。

小江戸らぐは、地域密着型のコミュニティの 1 つとして OSC の活動方針に賛同し、今後も OSC 実行委員会と協力して情報交流や地域に根付いた活動の発展に努めたいと考えます。

日本 Apache ユーザ会からのエンドースメント

日本 Apache ユーザ会は、全世界で最も多く利用されている Web サーバソフトウェア、Apache HTTP Server を利用する人たちのための、ボランティアサポートグループです。ユーザ会では、Apache HTTP Server の配布ソースに含まれる日本語版マニュアル作成（翻訳）をはじめ、メーリングリストでの Q and A、コミュニティサイト(www.apache.jp)の運営など、メンバーそれぞれが得意分野において時間的制約の許す範囲で活動を行っています。私たちは、OSC2010 活動方針に賛同し、今後とも活動紹介と交流の場として積極的に参加して行きたいと考えています。

日本 KDE ユーザ会からのエンドースメント

日本 KDE ユーザ会は、オープンソースのデスクトップ環境である KDE の国内における普及促進を目的としたコミュニティです。ユーザ会では、プログラムの国際化対応や翻訳などを中心に活動し、OSC でも展示やセミナーを行って参りました。オープンソースは、サーバー分野を中心に基幹システムを担う存在として社会を支えています。また、デスクトップ分野についても、欧米を中心に利用が広まりつつあります。この度、OSC の掲げる 2010 年のテーマが、日本におけるオープンソースのさらなる発展に寄与するものと考え、賛同するとともに、積極的に協力させて頂きたいと考えております。

日本 LDAP ユーザー会からのエンドースメント

LDAP は、主に企業や組織で使われる技術のため、なかなか多くの人に情報を提供する機会がありませんでした。そのため、オープンソースカンファレンスは、LDAP 技術の普及の場として、重要な位置を占めています。日本 LDAP ユーザー会は、これからも LDAP 技術の普及、技術者の交流の場として、オープンソースカンファレンスと共に歩んでいきたいと思えます。

日本 MySQL ユーザ会(MyNA) からのエンドースメント

日本 MySQL ユーザ会(MyNA)は、これまでのオープンソースカンファレンス(OSC)への参加を通じて、各地のユーザやコミュニティと交流して参りました。OSC は隔たっている地域どうしや、普段交流の機会を持たないコミュニティ間をつなげる、オープンソース界のハブのような役割を担ってきました。その OSC に 2010 年あらたに「オープンソースと政府・自治体」というテーマが加えられたことは、OSC およびオープンソース活用が新たなフェーズに入ったことを示しているでしょう。MyNA は OSC の 2010 年活動方針に賛同し、今後も活動を支援していきたいと考えています。

日本 NetBSD ユーザーグループからのエンドースメント

日本 NetBSD ユーザーグループ(1999 年設立: <http://www.jp.NetBSD.org/>)は、最初に行われたオープンソースカンファレンス 2004 から積極的に参加しています。2010 年 1 月までに行われた全 43 回のうち 38 回(全国 12 都市)で、ブース出展およびセミナーを開催しており、各エリア在住の NetBSD ユーザが持ち寄った自慢の NetBSD 動作マシンや、ユーザ自作のソフトウェア/ハードウェアを紹介する場として有効に活用できています。全国の街ごとに得意な分野が自然に生まれてゆく場面をぜひ目撃してください。

日本 PostgreSQL ユーザ会からのエンドースメント

日本 PostgreSQL ユーザ会(JPUG)は、オープンソースのデータベース PostgreSQL のユーザの普及・促進活動を行っている NPO 法人です。

OSC には、当会の北海道から沖縄まである 9 支部と本部からほぼ全国の開催で参加させていただいており、ユーザ様とのコミュニケーションや他団体との交流の場とさせていただいております。OSC の活動が、OSS の発展とユーザの利益に大きく寄与するものと考えており、これからも OSC の活動に積極的に関わらせていただきたいと思いますと考えています。

日本 Ruby の会からのエンドースメント

日本 Ruby の会は、プログラミング言語 Ruby の利用者ならびに開発者の支援を目的とした任意団体です。Ruby に関わるドキュメントの整備やイベントへの参加協力等を中心に活動を行っています。

日本 Ruby の会はこれまで、オープンソースカンファレンスへの参加を通じ、Ruby 利用者や開発者との交流や活動紹介を行ってきました。

2009 年は OSC2009 Sendai で仙台 Ruby 会議 01 を開催させていただきました。

日本 Ruby の会は OSC の 2010 年活動方針に賛同し、これからも利用者や開発者との交流の場として参加していければと考えています。

日本 Samba ユーザー会

日本 Samba ユーザー会の活動の場として、オープンソースカンファレンスは Samba の普及や啓蒙を行う事が出来る、重要な場所です。また、多くの人との交流から、コミュニティ活動の展開や、ビジネスへの橋渡しなども行えてきました。

現在、オープンソースカンファレンスは、コミュニティと、ビジネスや地域、公共団体等への橋渡しの場所として更に発展してきています。

日本 Samba ユーザー会は、これからも、オープンソースカンファレンスで、多くの人との交流を深めていきたいと思っています。

日本 Zope ユーザー会からのエンドースメント

今回のプレスリリースとテーマの追加はオープンソースが新しい時代に入ったことを象徴する出来事です。Google や Apple のような先進企業や EU・米国の政府機関でのオープンソース利用は常識となりましたが、日本ではまだ十分にオープンソースの効果的な利用法が理解されていません。安全保障と経済性の見地から最も普及が望まれる政府と自治体をテーマとし焦点を当てることで、この分野でのオープンソースへの理解と利用がいっそう拡大することを期待します。また、日本のオープンソース普及に献身的な貢献をしているオープンソースカンファレンス実行委員会に尊敬と感謝の意を表します。

本件に関するお問い合わせ先：オープンソースカンファレンス事務局

Tel: 03-5774-9461 (株式会社びぎねっとオフィス内)

mob: 080-3525-4533

e-mail: OSC2010@Begi.net